

国立研究開発法人水産研究・教育機構
平成30年度 契約監視委員会（第3回）議事概要

1. 日 時 平成30年11月1日（木） 14:00～16:00

2. 場 所 クイーンズタワーB棟7階D会議室
(神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3)

3. 出席者 委員長 蒲池 孝一 公認会計士
委 員 苑田 浩之 弁護士
委 員 林 義亮 神奈川新聞社 取締役論説主幹
委 員 森 哲哉 公認会計士
委 員 鈴木 孝 (研) 水産研究・教育機構 監事
委 員 檜山 義明 (研) 水産研究・教育機構 監事
水産研究・教育機構事務局

4. 議題 ①平成30年度第1四半期の契約実績及び入札等に関するアンケート調査
結果

②平成30年度第1四半期の契約の抽出案件

③その他

5. 議事概要

・議題①平成30年度第1四半期の契約実績及び入札等に関するアンケート調査結果

平成30年度第1四半期の契約実績、競争性のない随意契約及び一者応札・応募の類型別内訳、類型別の平均応札者数及び平均落札率、入札等に関するアンケート調査の結果と、それを踏まえた入札改善策などについて、事務局から資料に基づき説明があった。

○競争性のない随意契約を行った案件の中にある燃油調達については、入札が不調となった場合、再度公告して入札を行うことが通例ではないかと感じるが、見積競争としたことに特に理由があるのか。

→今回の燃油調達の対象船舶の実習航海の予定が迫っており、再度公告・入札の手続きに要する時間を確保できなかったことから、見積競争とせざるを得なかった。

○アンケート調査の結果の中に、入札に際して提供される資料のファイル数が多く、印刷するのが大変との回答があるが、どの程度の分量なのか。改善策はあるのか。

→頁数にして30～40頁である。提供方法については、今後、相手方のニーズに極力応えるようにしていきたい。

○アンケート調査の結果を見ると、今後の改善につながるような意見も多い。有意義だと思うので、今後も取組を継続してほしい。

・議題②平成 30 年度第 1 四半期の契約の抽出案件

平成 30 年度第 1 四半期に締結された契約の中から委員により抽出された 10 件の契約について、事務局から契約内容の説明があり、それぞれ審議を行った。

各案件についての質疑応答は以下のとおり

(競争性のない随意契約)

高圧電力北海道地区 1 5 箇所を使用する電気 (本部総務部契約課)

○今回の件は、落札者による契約辞退であり、再度公告は時期的に厳しく、見積競争とすることがやむを得なかったことも理解できる。ただ、今後、同様の審議案件がある場合は、最初の入札結果が分かる資料を提供頂きたい。

→次回以降は、入札結果に関する資料も用意する。

(競争性のない随意契約)

データ記録型電子標識 外 3 点 (本部総務部契約課)

○外国企業の製品とのことだが、メーカーから直接購入することはできないのか。また、同様の機器を日本で入手することはできないのか。

→当該外国企業は、今回の契約相手方を日本における総代理店としており、この者を通さずに購入することはできない。また、この機器は生きた魚体に一定期間取り付けるものであるため、大きさ、重量、データ容量に条件があり、現在、他社の製品では、全ての条件を満たすことが難しくなっている。

○地方公共団体における医療用ベッドの入札に関する事件などでもあったが、仕様書で機種を限定するといったことは極力避けるよう、事務担当者には更なる努力をお願いしたい。

→当機構では各研究所等で入札公告を行う前に、仕様書で必要以上に機種を限定しているといったことがないか、事前審査を行っている。今後も鋭意取り組んでいく。

(競争性のない随意契約)

電子ジャーナルサービス提供業務 (本部総務部契約課)

○ほかで代替することはできないものなのか。

→出版社が直接販売しているものであり、他社から調達することはできない。

(公告期間)

魚探付衛星ブイ（開発調査センター）

○改善方策はあるか。

→公告期間の日数の数え方について担当者に誤解があり、公告日数が短くなってしまった。今後は、誤りが起きないように、業務フローを改善して、再発防止に努める。

(複数応札・落札率100%)

深度・温度データロガー外3点（瀬戸内海区水産研究所）

○専門的な機器であり、予定価格の積算を業者見積りに頼らざるを得ないのも確かだが、事務担当者が勉強しているということが業者側への一定の圧力となり得る。業者の言いなりにならないよう一層頑張ってもらいたい。

(2年連続一者応札・落札率100%)

実験用配合飼料（九州地区）（中央水産研究所）

○一者応札の改善方策として、入札参加の声かけの範囲を広げるとあるが、実際のところ、改善の余地はあるのか。

→あと3社くらい、候補がある。

○応募者を増やすため、複数年契約にして契約規模の拡大を図るなど、魅力を高めることはできないか。

→予算は単年度主義となっており、難しい。

○納入期限はどうなっているのか。

→契約期間内に複数回の納入を行うこととなっており、最初は8月、最後は3月1日である。

○仕様書のあいまいな部分を具体的に記載するなどすれば、他の業者が参加してくる可能性があるのではないかと。研究の進捗度合いに応じて配合を微調整するというのも分かるが、業者側が自社で対応出来るか、判断がつかないと、参加しづらいのではないかと。

→ご意見を踏まえて対応していきたい。

(一者応札・高落札率)

教育用パソコンシステム賃貸借（水産大学校）

○改善方策として、履行期限をより長く設定するとあるが、今回の納期は短かったのか。

→5年前の前回調達時より2週間短くなっている。

(一者応札・高落札率)

北海道区水産研究所釧路庁舎共同実験室煙道改修工事 (北海道区水産研究所)

- 本案件のように石綿(アモサイト)を使用している事業所等は他にもあるのか。
- 石綿(アモサイト)を使用しているところが複数見つかっている。

(2年連続一者応札・落札率100%)

超高速高精度ゲノム配列決定システム保守点検業務 (中央水産研究所)

- 一者応札の改善方策として、今後、声かけを行う業者の範囲を広げるとあるが、対象となる業者はどのくらいあるのか。
- 明確に調べてはいないが、以前は、少なくとももう1社いた。神奈川県内だけでなく、東京都内まで声かけの範囲を広げれば更に数社は出てくると思う。

- 専門的な機器について、予定価格の積算を業者見積りに頼らざるを得ないのも確かだが、このような特殊機器についても業者の言い値とならないよう事務担当者が勉強していることを示していくことが、業者側にも一定の圧力となり得るので、一層頑張ってもらいたい。

(2年連続一者応札・落札率100%)

機械棟及び図書館空調設備保全業務 (水産大学校)

- これは特注品なのか。
- 特注品ではない。

- ・議題③その他
- 特になし

事務局から、次回の委員会は、平成30年度第2四半期に締結した契約が審議対象となり、平成31年2月下旬頃の開催を予定している旨の連絡があった。